

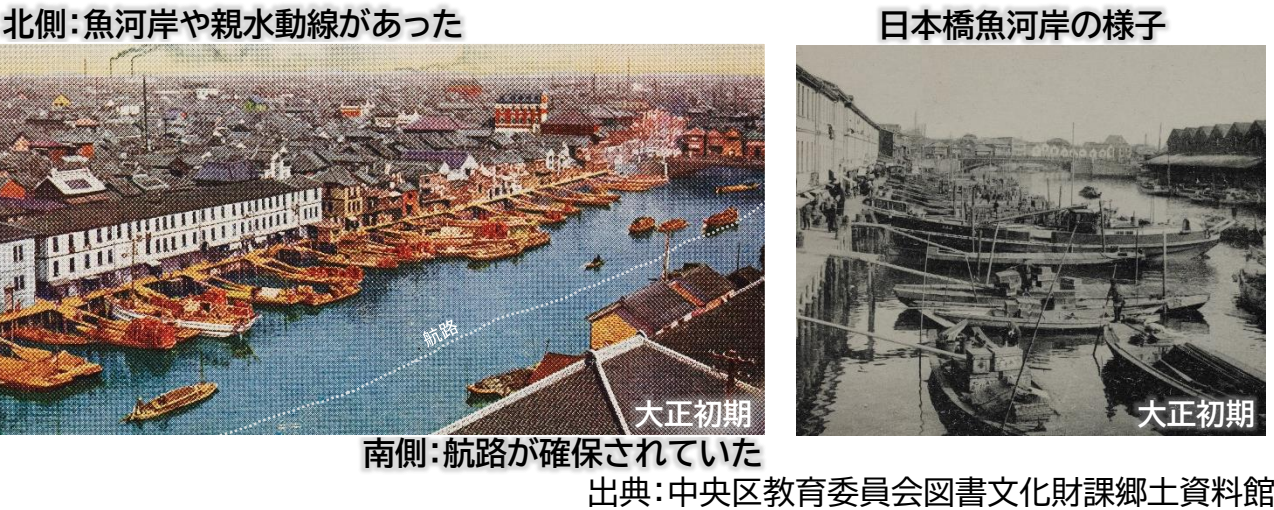
首都高高架橋撤去後の日本橋川水辺空間の将来イメージについて

首都高高架橋撤去後の日本橋川水辺空間の将来イメージについて

- 日本橋川沿い5地区の再開発事業や首都高日本橋区間地下化事業を契機として、各事業の関係者が連携し、東京の新しい顔を創造することを目指しています。
- 世界に誇れる日本橋川沿いの水辺空間の形成に向けて、首都高高架橋撤去後の2040年以降の将来イメージを本連絡会において検討・共有していきます。

1 日本橋川沿い周辺の歴史的背景

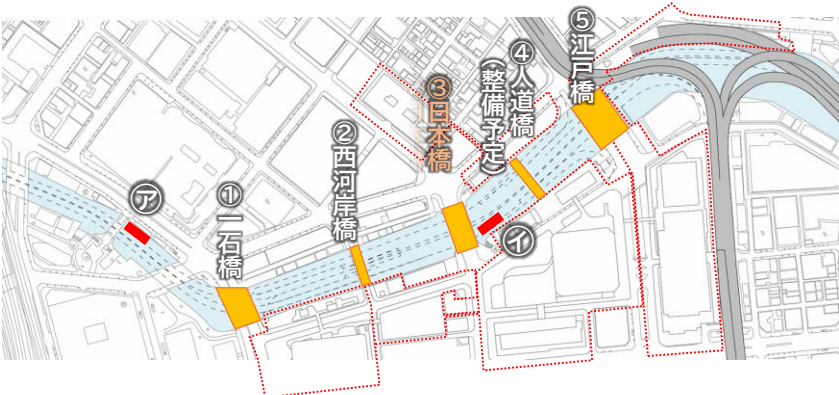
- ・ 関東大震災以前は鮮魚類の荷揚げや取引の中心が日本橋川北側の河岸地にあり、魚河岸が江戸・東京の代表的市場として機能していた。
- ・ 南側は、航路が確保され、多くの舟が行き来していた。



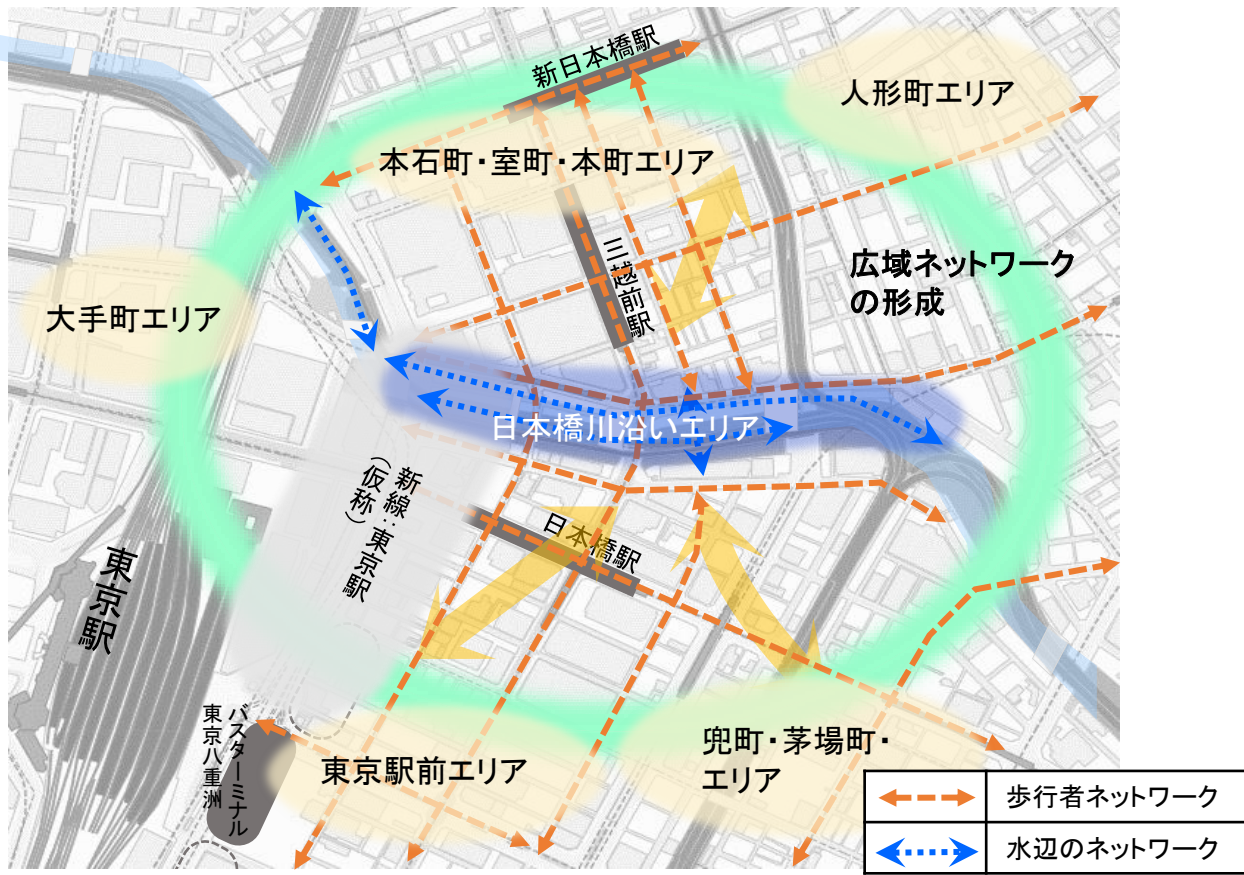
2 日本橋川沿い周辺の状況

(1) 舟運および橋梁

- ・2000年 日本橋川常盤橋防災船着場が設置(図㊦)
- ・2011年 日本橋船着場を開設(図㊧) ※既設防災船着場を活用



(2) 日本橋川沿い周辺の歩行者ネットワーク



- ・日本橋川沿いやその周辺エリアにおいて、都市基盤整備(※)や開発事業を契機に歩行者ネットワークの強化が図られる予定である。
- (※)首都高日本橋高架橋撤去(2040年予定)
東京駅前3地区再開発によるバスターミナルの整備
地下鉄新線の整備(構想段階)

・日本橋川沿いの水辺空間を整備し、水辺のネットワークを形成することにより、各エリアをつなぐネットワークが強化され、さらに魅力的で回遊性のある広域のネットワークが実現する。

首都高高架橋撤去後の日本橋川水辺空間の将来イメージについて

3 日本橋川水辺空間の将来イメージの基本的な考え方

将来イメージの実現に向けて、以下の基本的な考え方について関係者が連携し、検討していく。

(1) 日本橋川沿いの歴史的背景を踏まえて「水辺の歩行者ネットワーク」を形成し、周辺エリアとの回遊性を生み出す。

■水辺の歩行者ネットワークや舟運ルートのイメージ



首都高高架橋撤去後の日本橋川水辺空間の将来イメージについて

(2) 水面から川沿い街区まで様々な機能を配置するとともに、さらなる舟運の活性化を図ることで、多くの人が集まるにぎわいと魅力あふれる多層的な親水空間を創出する。

■多層的な親水空間のイメージ

